

- 1 教育事業名 「イチ・ニ・サンゴ大作戦」～アチコーコーの海！白化現象を調べよう！！～
- 2 ねらい

サンゴ礁は直接的にも間接的にも、さまざまな方面から人々の生活に関わっている。

今日、サンゴ礁の価値に対する認識は広まってきているが、身近にあるサンゴに関する形態や生態等を科学的に学ぶ機会はほとんどない。

本事業では、野外で実際にサンゴ礁を観察し、サンゴの種類や分類や生態、サンゴ礁に生息する生物を調査・観察する。特に本年は、海水温の上昇によりとくしく湾でも進行しているサンゴの白化現象をテーマに調査し、変化していくサンゴ礁の姿について考える。

また、サンゴの海と共に生きてきた島の人の話を聞くとともに、サンゴ礁海岸の遺跡や史跡の見学をおし、太古の昔から受け継いできたサンゴ礁からの恵みについて学ぶ。

そして最終日に、今回の調査結果及び過去2年の本事業で得た調査結果も踏まえてまとめを行い発表することで、今後の海洋利用のあり方を考え、環境問題に継続的に関心を持ち、保全のために行動する児童生徒を育成する機会とする。

- 3 期 日 平成28年10月8日(土)～10日(月) 2泊3日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 24名
- 6 参加人数 24名
- 7 参加者内訳 小学生5・6年生17名 中学生7名 (男性12名 女性12名)
- 8 講 師

- ・小池大二郎氏(環境省慶良間自然保護官事務所) 講話「国立公園慶良間の魅力と保全について」
- ・番田武六氏(ダイビングショップ「Vibgyor」代表) 講話「サンゴ礁のお話」
- ・永田俊輔氏(沖縄美ら島財団) 実習「サンゴの秘密をみつけよう」「サンゴ礁ウォッチング」
「サンゴ礁マップ作成・発表」
- ・米田英明氏(琉球新報社通信員) 実習「サンゴ礁の贈り物をみつけよう」
- ・森有紀子氏、金城真里子氏、比嘉康裕氏、宮國淑氏(スノーケリングインストラクター)
実習「とくしく湾の観察」「サンゴ礁ウォッチング」「サンゴ礁マップ作成・発表」

9 実施プログラム

		9:00	10:00	11:45	12:00	13:00	14:00	16:00	19:30	21:00	21:30	
8日(土)		作戦1 ～海マスターになろう！										
		とまりん 集合	フェリー とかしき	移動	オーブ ニング	昼 食	講 話 ①	仲 間 づ く り	実習① とかしき湾の観察 「スノーケリングの基礎と 海中観察」	移動	入 所 O R ・ 夕 食	講話② サンゴ 礁 の お 話
9日(日)	準備・移動・朝食	作戦2 ～サンゴ博士になろう！										
		実習② サンゴ礁の贈り物 「根元家石垣見学」 「船越原遺跡見学・岩礁の生物 観察」	シャワー 移動 昼食(弁当)	実習③ サンゴ礁ウォッチング 「慶良間海峽沿岸サンゴ礁 生態系の観察」	夕 食 ・ 入 浴	実習④ 「サンゴ の ひみつ」	就 寝 準 備	就 寝				

		9:00	9:30	10:30	12:30	14:40	15:30	16:40	
10日(月)	つどい	朝食・準備	移動	作戦3 ～サンゴ大作戦			移動	フェリー とかしき	解散
				実習⑤ 「とかしき湾の サンゴ礁調査」	シャワー 移動 昼食(弁当)	実習⑥ 「サンゴ礁調 査のまとめと 発表」			

*9日は波高の影響を考慮して、実習②と③を予定とは入れ替えて行った。

10 事業の様子



慶良間諸島の魅力について



班の役割決め～まだ硬い表情



スノーケリングの基礎①



スノーケリングの基礎②



バディーと手をつないでいざ海へ！



とかしきビーチの観察



ナマコ発見！！



実験は楽しいな～



渡嘉敷島のサンゴ礁のお話



地元講師の話を真剣に



岩礁をていねいに観察



植物も大切な仲間です



いざ！サンゴ礁ウォッチングへ！！



キレイだぞー！



サンゴ骨格の観察



サンゴの分類を学ぶ



どれだけ分かるかな～



講師に熱心に質問



調査前に記念写真



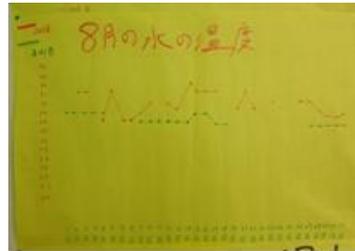
各班ごとに調査へ



サンゴ礁マップづくり



高校生ボランティアも資料作成



とかしくビーチの水温度変化



発表会～活発な質疑応答も



各班工夫をこらして完成したマップ



11 エピソード（アンケート・参加者の感想）

- ・私はサンゴと聞いたときは、砂浜にうちあげられた白く石みtainなサンゴの死がいをイメージしました。ですが、「イチ・ニ・サンゴ大作戦」を通して、サンゴは深く海の生物と関わっていて、昔は石垣につかわれていて、サンゴがいないと海の生物はいなくなってしまうことになるかもしれないと思いました。なので、自分たちはこの事実をいろんな人に伝え、この美しい海をいつまでも守っていききたいです。
- ・サンゴとは、初めはどうでもいい動物で、泳いでいる時に邪魔だと思うこともあったが、この事業に参加して大切ということが分かった。
- ・海を守っていくために、次からはポイ捨てをしている人に注意をし、その人がいなければゴミ箱に入れていきたいと思いました。
- ・サンゴの白化現象は人間が原因を作っていることが分かった。
- ・サンゴ礁の白化は海水温ととても深い関係があることが分かった。
- ・海の環境を保全するために、車にできるだけらず、洗剤を流さないで、電気、クーラー、扇風機、水のむだづかいをしないようにする。
- ・コンビニやスーパーで買った袋なども道ばたに捨てないで必ずゴミ箱に入れる。
- ・泳ぐときにサンゴを踏んだり、フィンで傷つけないようにする。
- ・サンゴにはいろんな魚の住処になっていることが分かった。
- ・サンゴはみんなつながっているのでも、自分のできることからちょっとずつやりたいです。
- ・チームワークがとても良かった。
- ・サンゴの病気があったことが分かった。
- ・ものごとにはいろんな見方がある（今さらながら）。
- ・僕にとってサンゴは大切な資源で、大切な動物であることに気付けた。
- ・サンゴは海の恩人といっていいほどに、魚と深くかかわっていると分かりました。
- ・この島の海はこの島の人達に大切にされているのだと思った。

12 担当者所見

(1) 成果

参加者の感想にみられるように、サンゴ礁について関心はあっても、その役割や人間の生活との関わりなどについては詳しく知らなかった参加者が、事業での学びを通し、科学的な知識を身につけ、保全のための行動をおこすことが期待できるようになった。最終日の発表会の参加者の顔はみんな真剣そのもので、使命感を感じさせるものであった。

成果の要因としては、テーマをしぼりながら直接サンゴやサンゴ礁について実験や観察を通して学んだこと、サンゴ礁の海の魅力や人間の生活との関わりについても地元の講師から直接話を聞かせてもらったこと、そして学んだことを整理し、他者に伝えるためにまとめの作業を行ったことが挙げられる。また、今回は参加者の募集方法を変え、学年別に募集枠を設けたことで中学生の参加が増えたことや男子高校生3名の自主ボランティア参加があり、年長者がリーダーシップを発揮したことで各班のチームワークがさらによくなり、行動も機敏で、話し合いも活発になった。

本事業の応募人数は年々増加しており、サンゴ礁保全に対する青少年の関心は高いことがわかる。今後も当施設の恵まれた環境を活かして、工夫をこらした体験型の環境教育事業を行っていく重要性を強く感じる。

(2) 課題

- ・台風シーズンに実施するため、荒天時プログラムや延期日程を含めた講師の調整が必要である。
- ・参加者の安全管理のために、スタッフの人数確保や緊急時の対応をスタッフ間で念入りに打ち合わせることが必要である。
- ・年1回の開催でなく、2～3回のシリーズで開催することで、保全に向けての活動をプログラムとして展開でき、さらに学習効果も高まり、環境保全に寄与することができると考える。